

BBS GROUP NEWS

VOL.64 JANUARY 2023

お客様とBBSをつなぐコミュニケーションツール



CONTENTS

Page 2 — セミナーレポート BBS FORUM 2022

Page 4 — 対談

株式会社乃村工藝社 株式会社ビジネスブレイン太田昭和
取締役 常務執行役員 管理統括本部長 × 代表取締役社長
奥野 福三 小宮 一浩

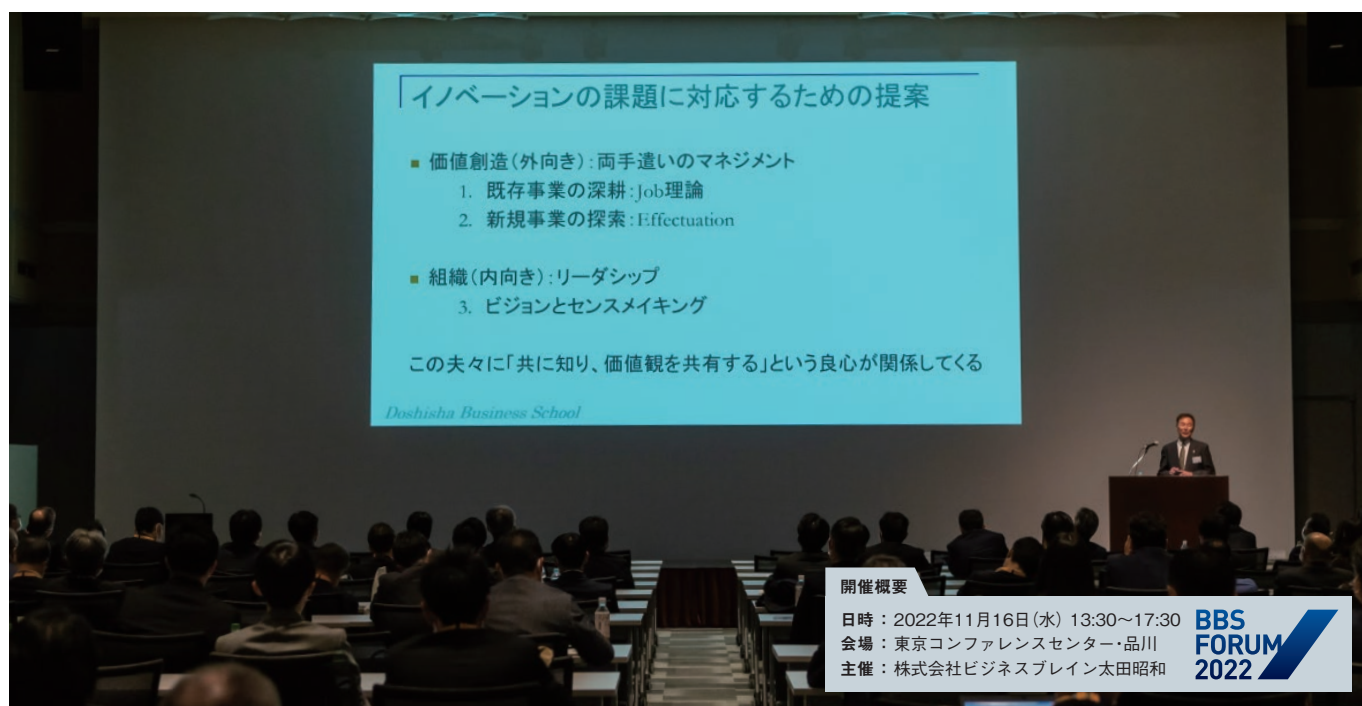
Page 6 — BBSと親子で学ぼう ～お年玉～

Page 7 — 第5回 | BBS 絵画コンクール 受賞作品発表

Back cover — BBSの「DX」

BBS FORUM 2022

組織がデジタルトランスフォーメーションを 実現するために必要な 「人財」と「品質」の在り方とは？



開催概要

日時：2022年11月16日(水) 13:30~17:30
会場：東京コンファレンスセンター・品川
主催：株式会社ビジネスブレイン太田昭和

**BBS
FORUM
2022**

BBS フォーラムを 3年ぶりにリアル開催

お客様へ感謝の思いをお伝えするとともに、社会・経済動向を踏まえた有用な情報の提供を目的に開催しているBBSフォーラム。2022年のフォーラムは、新型コロナウイルスへの感染防止対策を講じたうえで、2019年以来となるリアル(対面)形式で開催しました。開会挨拶には、当社代表取締役社長の小宮一浩が登壇。これに続き有識者やお客様にご講演いただいた後、落語家の桂文楽師匠に恒例のBBS寄席を設けていただき、フォーラムは盛況のうちに終了しました。

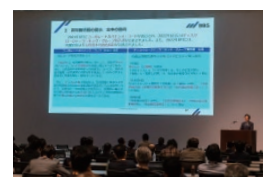
OPENING MESSAGE

経営環境が大きな変化に直面するなか、お客様はさらなる成長に向けて新たな取り組みに挑戦されています。今回のイベントは、その参考になるプログラムを用意しました。今後も当社グループは企業の総合バックオフィスサポーターとしてお客様の取り組みを全力でご支援してまいります。ぜひご期待ください。

開会挨拶に立つ
当社代表取締役社長 小宮一浩



桂文楽師匠によるBBS寄席。演目は古典落語「天災」



基調講演

両手遣いのイノベーション、 激変する状況に対応し克服するための方法論

不確実なビジネス環境のなかで企業の持続的な成長を実現するエンジンとなるのが「イノベーション」。そして、この成長エンジンを回していくための方法論が、「既存事業の深耕」と「新規事業の探索」を両立する“両手遣い”のマネジメントです。基調講演では、これらを推進する新たなアプローチとして注目されているJob理論、OODA (Observe-Orient-Decide-Act)、Effectuationといった概念をはじめ、リーダーシップの発揮において求められるビジョナリーとセンスメイキング、さらにはイノベーションを「良心」(ともに知る)というレンズを通して考えることの重要性についてお話しいただきました。



北 寿郎 氏
同志社大学 名誉教授

BBS 講演

サステナビリティ経営 ～求められる社会的要請、開示ルールおよび対応策～

SDGsの浸透やTCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)による提言、コーポレートガバナンス・コードの改訂などを背景に、企業に対するESG(環境・社会・ガバナンス)情報開示、非財務情報開示の要請がますます高まっています。こうした要請に応えながら事業の成長をめざすのがサステナビリティ経営であり、その対応状況を開示するルールの整備も進んでいます。そこで、BBS講演においては非財務情報開示を強化するうえでの具体的なプロセスと各プロセスでのポイントや留意点を紹介。さらに、財務情報と非財務情報の一元管理を可能にする、経営管理基盤のDXが重要になることを解説しました。



谷 淵 将人 氏
株式会社ビジネスブレイン太田昭和 取締役 常務執行役員

お客様講演

ミサワホームの挑戦 ～デジタルを活用した新しい働き方～

ミサワホーム様が働き方改革を開始したのは2018年。いち早くテレワークをスタートさせて勤務時間を年間6万時間以上も短縮するとともに、資料作成にRPAを導入し、作業時間を2,000時間以上削減しました。また、2020年からは「Withコロナ 新しい働き方」をテーマに設定。デジタル技術を活用した業務の効率化・自動化や業務プロセスの改善と並行して、業務を支える社員のITスキル・リテラシーの向上にも注力してきました。お客様講演では、こうした取り組みの成果や工夫点に言及しつつ、「社員がリラックスしてかつ真剣に仕事をできる風土づくり」こそが大きな目標であるとの考えをご紹介いただきました。



堤内 真一 氏
ミサワホーム株式会社 取締役 常務執行役員

講演内容の詳細は、Webサイトに掲載しています。ぜひご覧ください。
<https://www.bbs.co.jp/corporate/publication/group-news/report-20221116/>





株式会社乃村工藝社
取締役 常務執行役員 管理統括本部長
奥野 福三



株式会社ビジネスブレイン太田昭和
代表取締役社長
小宮 一浩

社員の創造力を伸ばして 期待を超える空間をつくり お客様の信頼につなげる

日本を代表する空間プロデュース企業である乃村工藝社。同社取締役の奥野福三氏をゲストに迎え、仕事に取り組む姿勢や品質などについて、当社代表取締役社長の小宮が意見を交わしました。



対談内容のフルバージョンをWebサイトに掲載しています

時代とお客様の思いを捉えた オフィスづくりで成長をサポート

小宮: 昨年は、当社の本社移転に際してエントランスなどのデザインを手がけていただき、ありがとうございました。ビジネスへの思いをすばらしい感性で表現していただき、とても嬉しく思っています。また、このオフィスデザインで世界的なデザイン賞を受賞されましたね。おめでとうございます。

奥野: ありがとうございます。当社の仕事は、空間の創造・活性化を通じて、お客様の成長をサポートすることです。オフィスは、大きな転換期を迎えています、社会動向とお客様の思いをしっかり捉えた空間の提案に注力しています。

小宮: 自社のオフィスづくりには、どのように取り組まれているのでしょうか。

奥野: 競争力の源泉である創造力を発揮できる環境づくりをめ

ざしています。例えば本社棟や隣接する別棟に設けたオフィス空間は、実験過程にある「未完の自由空間」と位置付け、新たな発想が生まれるたびにデザインやレイアウトを変更して、社員が創造力を伸ばし、発揮できる空間としています。

小宮: 環境面から柔軟に人財の働き方を支援するのは、まさに御社ならではの取り組みですね。

お客様に評価されてきた品質重視の経営 「ブランデッド」の重要性を再認識

小宮: ものづくりにおいて品質は重要なテーマです。品質に対するお考えや取り組みをお聞かせください。



奥野 福三

1982年入社。執行役員、取締役を経て、2012年にグループ会社の代表取締役社長に就任。その後、常務執行役員 第四事業本部長、グループ事業本部長、事業統括本部 クリエイティブ本部長を歴任。2021年より現職。グループ会社4社の取締役も兼務。

奥野:業界のリーダーとしてトップの業績を上げるなかで大切にしてきたのが、まさに品質です。空間創造で問われる品質は「お客様への提案力」と「施工を含めて最後までやり遂げる推進力」であり、当社が創業130周年を迎えることができたのは、この品質がお客様に評価されてきたからだと思います。そして、それは我々のブランデッドだと社内で話しています。

小宮:最近、耳にする機会が増えてきたブランデッドですが、御社にとってはどういったイメージなのでしょう。

奥野:ブランディングは、今後を見据えてめざしていくもの。それに対して「ブランデッド」はお客様からいただいた信頼というイメージです。お客様に評価され、信頼されてきた実績は当社の誇りで、忘れてはいけないものです。130年の歴史を支えてきた「ブランデッド」を再認識し、ビジネスフィールドを広げて未来に活かしていこう、と話合っています。

独自の視点と圧倒的な創造力で 期待以上のものをつくり上げる

小宮:お客様からの評価で、どのようなことが印象に残っていますか。

奥野:「とても満足した」と評価していただいたお客様に共通しているコメントで、「乃村工藝社から最初に提案された時は、頭のなかでクエスチョンだらけだった」というものです。実際に完成すると、期待をはるかに超えるものができ上がり、依頼して良かったとお話しいただくことが多いと感じています。

小宮:その要因は、どこにあるとお考えですか。

奥野:お客様が気付かれていない特長や魅力を独自の視点で見つけ出し、最適なデザインで表現していること。予定調和ではなく、他との差別化を図る創造力が発揮できていると思います。

小宮:コンサルティングも同様で、お客様の気付かれていない課題を見つけ出して解決策を提案すると、ご満足の声をいただくことができます。どのようなビジネスでも専門性を発揮して、お客様の期待を超える成果を上げるのが求められていることだと感じますね。

奥野:おっしゃるとおりです。その意味で、何をするか、簡単にお客様が想像できる会社ではダメ。「何をするかわからないけれど、期待以上の素晴らしい成果を見せてくれる不思議な会社」と、評価される企業でありたいと思っています。

一流であり続けることで お客様に信頼され続ける企業に

小宮:今後に向けて、注力されていくポイントをお聞かせください。

奥野:当社の人財マネジメントポリシーに「一流であり続ける」という言葉があります。一流とは、代替が効かないこと。「あなたしかいない」「乃村工藝社でなければダメ」と言われる力です。この力を生み出すのは、「空間をつくるこの仕事が好き」という社員一人ひとりの思いです。仕事が大好きな一流の人財が集まり、お客様の期待をはるかに超える魅力的な空間をつくり出し、信頼され続ける会社をめざします。

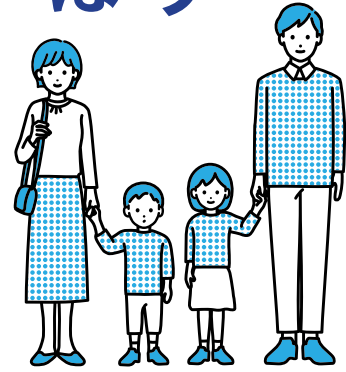
小宮:ノムラ・アイデンティティの確立に向けて、貴重なお話を伺うことができました。当社も自社のアイデンティティについて考え、「BBSと仕事がしたい」と言われる実績づくりを進めていきたいと思っています。本日は、ありがとうございました。





ビー ビー エス おや こ まな BBS と親子で学ぼう

はぎはら けん た せんせい (株式会社ビジネスブレイン太田昭和 コーポレートマーケティング室 室長)



子どもの楽しみ、親の悲しみ? 「お年玉」

このコーナーでは、小中学生の皆さんが大人になって、社会で活躍していく時に役立つ知識を解説しています。今回のテーマは「お年玉」。お金の管理について学んでみましょう。



今年のお正月、お年玉をもらいましたか？

はい、もらいましたー！



それは良かったですね。小学生の9割くらいはお年玉をもらっているようですよ。

お年玉をもらうと幸せな気持ちになるよ。



皆さんはお年玉をお父さんやお母さんに預けていますか？

はい、預かっておくからわたしてって言われます。



それはいいことですね。親は未成年の子どものお金を管理することができるので、親に管理してもらう場合はお父さんやお母さんの言うことを聞きましょう。

でも親がお年玉を勝手に使うのはダメですよね？



はい、それはダメですね。親は一時的に管理しているだけなので、勝手に使ってはいけません。

もし勝手に使ったらどうなりますか？



他人のものを勝手に使ってはいけないのと同じです。親であってもお金は勝手に使わずに、きちんと返さなければなりません。

貯金しておくと言われるけど、お菓子やゲームを買いたかったら、使っていいの？



そうですね。でも、使いたい時は「なぜ使いたいか」を伝え、親ときちんと話し合ってからにしましょう。

POINT

お年玉を管理する親なども、子どもの希望を聞く必要がありますが、お年玉をもらった皆さんも勝手に使えるわけではありません。きちんと話し合いをしてお年玉の使い道や管理の方法を決めましょう！

第5回 | BBS 絵画コンクール 受賞作品発表!

テーマ ▶ この冬、やりたいこと

子どもたちの想像力や表現力を育むことを目的に開催しているBBS絵画コンクール。応募作品はBBS社員をはじめ、小宮社長も選考に参加し、次の7点が受賞作品に決定しました。今回も全国からたくさんのご応募ありがとうございました。



まつもと けん しろう
松本 絹士郎さん
(静岡県浜松市)
『友達と年越し』



まつい たいら
松井 平さん
(神奈川県大和市)
『たべるぞ!!
みかん100こ!!!』



かこ りな
加古 瑠莉那さん (茨城県日立市)
『氷の穴の向こう側』

「氷上のワカサギつり」やってみたいです。冬の雪国に行ったことがなく、しっかりした防寒着すら持っていませんが、氷の上でドキドキしながらつい穴をのぞきこんでしまう私と、氷の下でゆがに泳ぐワカサギたちを描きました。



ほり たまき
堀 環さん
(茨城県つくば市)
『森の中でみんなでマッシュマロやき』



なか がわり こ
仲川 璃子さん
(福岡県北九州市)
『おいしいツリーを
めしあがれ!!』



うちだ のぶあき
内田 亘昭さん
(大阪府茨木市)
『ばあちゃんに
弟子入り』



おぎわら ひであき
荻原 秀明さん
(埼玉県ふじみ野市)
『ふゆのまほうを
つかいたい』



受賞作品の詳細は、2023年1月にBBSのWebサイトで公開予定です。
Webサイト: <https://www.bbs.co.jp/contest/library/>



BBSの「DX」

お客様のDX(デジタルトランスフォーメーション)を支援するBBS。そのBBSは、社内のDXをどのように推進しているのでしょうか。ここではBBS社内のDXの取り組みや進捗について紹介します。

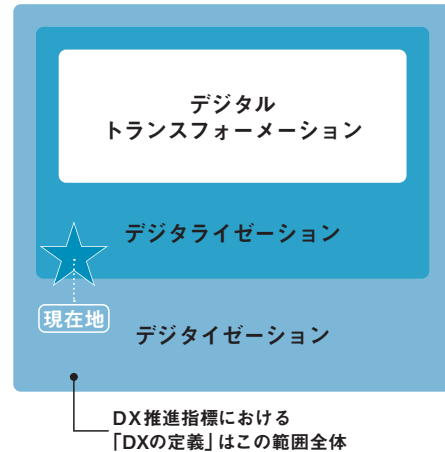
01 DXとその進捗状況

DXは「事業やビジネスモデルの変革」であり、いくつかのステップがあります。まずはアナログ情報をデジタル化する「デジタルイゼーション」、さらに業務・プロセスをデジタル化する「デジタルライゼーション」、そしてこれらのデータを活用して、真のDXが実現します。データの積み上げでDXが実現するのではなく、業務プロセスの抜本的な見直しとリデザインが組織内のDXにつながります。

それではBBSは？

プロジェクトや取り組みによって進捗は異なりますが、総じてデジタルイゼーションの取り組みを実施しているのがBBSの現在地です。2021年のオフィス移転にともない、紙書類の徹底した削減と電子化を実施。その後も、RPA・AI-OCRの活用などによって業務やプロセスのさらなる効率化・デジタル化を進めています。

経済産業省「DXレポート2」



02 業務・プロセスにおけるRPA・AI-OCRの活用

BBSでは、各部門でRPA・AI-OCRの活用を検討し、順次導入やロボット化を進めています。ツールの検証や社員研修、基本部品の提供などは、当社のRPA研究所が中心となって対応しています。

	1Q	2Q	3Q	4Q
2022年度の作業計画 (サマリー)	準備 <ul style="list-style-type: none">環境構築ツール検証プレ部門チャレンジガイドライン作成	教育研修 <ul style="list-style-type: none">環境利用開始パイロット部門チャレンジ社内DXポータル構築	DX Award 開催 <ul style="list-style-type: none">Award実施研修動画配信開始 (WinActor DXSuite VBA)オンライン相談会	全社展開・来期計画 <ul style="list-style-type: none">2023年度計画オンライン相談会
累計チャレンジ部門数 (計画)	4 部門	10 部門	16 部門	22 部門

03 DX Award の開催

社内業務DX化に取り組む部門にスポットライトを当てる企画として「DX Award」を新たに開催します。「笑顔」「貢献」「誇り」をキーワードに3つの賞を設け、そのなかから1つに社長賞を授与します。

